
河本志朗教授、川中敬一教授退職記念号の発刊にあたって

日本大学危機管理学部 学部長 福田 弥夫

日本大学危機管理学部も創設から7年の年月を重ね、本年3月には第4期生を社会へ送り出します。日本大学が創立130年を記念してこの世田谷の地に開設したわが学部ですが、おかげさまで設立の目的であった、現代社会において危機管理を実践できる人材の育成は順調に進み、国家や地方の公務員はもとより、民間企業や各種の団体などで卒業生は活躍しております。

開設7年目を迎え、設置教員としてお迎えした先生方の中から、今年は河本志朗先生と川中敬一先生をお送りすることになりました。お二人の先生には、危機管理学部の教授として、研究、教育そして学部運営などの面で多大な貢献を賜りました。これまでの学部発展への寄与に感謝の意を表すために、危機管理学研究第7号を、河本志朗教授、川中敬一教授の退職記念号として発刊させていただくこととなりました。

河本志朗先生は、パブリック・セキュリティ領域の教授としてご着任になり、主にテロ対策やセキュリティ関係の講座を担当されました。先生は、山口県警を振り出しに、外務省出向（在ムンバイ日本国総領事館）、警察庁出向（警備局警備企画課）ののちに、現在の公益財団法人公共政策調査会の第二研究室長を務められました。河本先生はテロ対策における日本の第一人者であり、海上保安庁長官からの表彰も受けられています。最近の論文では、「国際テロの現状とわが国に対する脅威」を『火災』71巻2号に発表されています。先生の豊富な実務経験と理論に裏付けられたテロ対策関係の講義は大変な人気でありました。また、茂田先生や金山先生との警察出身の先生方による、警察官志望者への特別面接指導は、多くの警察官を輩出してくださいました。

川中敬一先生は、グローバル・セキュリティ領域の教授としてご着任になり、主に戦略関係の講座を担当されました。先生は、海上自衛隊や防衛大学校などでの要職を歴任され、特に中国を中心とした国際地域研究やゼミナールの授業は、先生の実務経験に満ちた講座でもありました。また、通信制の日本大学大学院総合社会情報研究科の兼担専任教員も務められ、大学院生の指導にもあたられました。ご自身の退職記念号である本号に「中国の統一概念と強硬姿勢との関連に関する考察」を掲載されるなど、その研究に向かう姿勢から、私たちが学ぶことは多いと思います。

河本先生と川中先生の危機管理学部創成期へのご貢献に衷心より感謝申し上げ、ご健康とご活躍をお祈り申し上げますとともに、これからも危機管理学部へご指導くださいますようお願い申し上げます。

河本志朗教授の略歴と最近の研究業績



1. 略歴

- 1976年 3月 同志社大学 経済学部卒業（経済学士）
- 1976年 4月 山口県警察官拝命
- 1991年 3月 外務省出向（在ムンバイ日本国総領事館）
- 1994年 3月 警察庁出向（警備局警備企画課）
- 1997年 3月 警察官退職
- 1997年 4月 財団法人（現公益財団法人）公共政策調査会第二研究室長
- 2015年 4月 日本大学総合科学研究所教授
- 2016年 4月 日本大学危機管理学部教授

2. 最近の研究業績

(1) 書籍

『現代地政学辞典』（5章 揺らぐボーダーへの再接近—対立への処方（3）「日本の国際テロ対策」）丸善出版、2020年。

『実戦CBRNeテロ・災害対処』（第1章 「テロ災害の本質」、第2章 現地調整所から見たテロ災害発生時の各機関の役割 第2節 「警察」）2018年、東京法令出版。

(2) 論文等

「国際テロの現状とわが国に対する脅威」『火災』71巻2号、2021年、21-26頁。

「警察における国民保護措置」『救急医学』42巻1号、2018年、23-28頁。

「ボストン・マラソン爆弾テロと多数傷病者事案対応—2020東京オリンピックへの準備に向けて—」『消防研修』100号、2016年、96-107頁。

「大規模イベントにおけるCBRNテロ対策の取組と課題」『国際安全保障』44巻2号、2016年、69-85頁。

川中敬一教授の略歴と最近の研究業績



1. 略 歴

1957年東京都生。1980年防衛大学校理工学専攻機械工学科卒業後、海上自衛隊入隊。

第1護衛隊群、第42・18掃海隊、陸上自衛隊小平学校、海幕調査部、掃海艇艇長、作戦情報支援隊2係長、第2護衛隊群作戦幕僚乙兼情報幕僚、中央調査隊資料課長、護衛艦艦長、掃海隊司令、幹部学校研究部対抗部隊班兼海幕防衛部、防衛大学校防衛学教育学群等を歴任し、2013年退官。

東京財団海洋政策研究所及び日本大学総合科学研究所教授を経て、2016年日本大学危機管理学部教授。

この間、慶應義塾大学外国語学校（中国語）、指揮幕僚課程及び杏林大学大学院（博士前期・後期課程）修了。

2. 最近の研究業績

(1) 書 籍

「南シナ海をめぐる中華と諸国間の関係」『月刊 治安フォーラム 1月号』立花書房、2020年。

(2) 論文等

「中印戦争における勝敗決定要因の深層的構造」『危機管理学研究』第4号、2019年。

「中国軍事理論に立脚した中国にとっての島嶼進攻作戦」『危機管理学研究』第5号、2020年。

「中国の法令と諸国の海上権限行使制度から理解する中国海警法」『危機管理学研究』第6号、2021年。

「中国の統一概念と強硬姿勢との関連に関する考察」『危機管理学研究』第7号、2023年。